

# Heartful Partner

## ハートフルパートナー

VOL.9

今回は粟生町で木工業をご経営の吉田和生さん・千尋さんご夫妻をお訪ねしました。6人(2男4女/高校生3人・中学生2人・小学生1人)のお子さんの子育てを中心に伺いました。



### Q 小さいときはさぞかし大変だったでしょう。

千尋：健診・買い物など日常の外出には、下の子ども達を連れ沢山の荷物なのでおっくうになったことも。最初の頃は義父母もいましたし、夫も協力してくれたので助かりました。

### Q それはどんな協力ですか？

和生：オムツを替えたり、ミルクを飲ませたり・・・。  
千尋：子どものお風呂は必ず夫が。夜は一緒に寝るようにしてくれました。親という自覚の元に成長してくれる夫が心の支えになり感謝しています。今でもですが、食事は全員揃って食べていますよ。

### Q まさに夫婦で子育てですね。

千尋：保育園でお母さん方や先生からアドバイスを貰ったりもしました。今では、地域の方のおかげで安心して登下校ができます。決して夫婦だけでは無理でしょうね。

### Q 6人のお子さんの成長をご覧になっていかがですか？

千尋：親が言わなくても色々身に付いて、子どもの中で縦の社会ができ、1つの家を形成しているようです。  
和生：現代では少子化で、親・祖父母までが手をかけすぎているように思います。教育費など先のことを考えすぎるのもその原因かなあ。

### Q お子さんたちに将来望むことは？

千尋：人を嫌いにならない。男女同権でも中心になる柱は大切。  
和生：人に迷惑をかけないように、のびのびと自分のやりたいことを。

「子育ては苦しみもあり楽しみもあり、これからは違う悩みもでてくるかなあ」その言葉には、お互いを尊敬しながら家庭を築き上げている自信があふれていました。

## 相談窓口案内

市外の相談窓口もご利用頂けます。

実施機関	種類	所在地	電話番号	実施日時
小野市男女共同参画センター	女性のためのさまざまな相談	小野市中島町72 小野市うるおい交流館エクラ内	電話相談 (随時) 0794-63-8250	木曜日 9:30~11:30
			面接相談 予約制	木曜日 13:00~16:00
小野市民病院	女性のための医療専門相談	小野市中町323	面接相談 予約制 0794-63-2020 内線188	木曜日 13:00~16:00
三木市男女共同参画センター	女性のための相談	三木市上の丸町8-30 勤労青少年ホーム内	電話相談 (随時) 0794-89-2354	木曜日13:00~16:00 土曜日10:00~12:00
			面接相談 予約制 0794-89-2331	木曜日10:00~12:00 土曜日13:00~16:00
北播磨民局	女性問題相談	加東市社字西柿1075-2	電話相談 (随時) 0795-42-5111・内線604 面接相談 予約制 0795-42-5111・内線604	月・水~金曜日 9:00~17:00 月・水~金曜日 9:00~17:00
兵庫県立男女共同参画センター	男性問題相談 不妊専門相談	神戸市中央区 東川崎町1-1-3	電話相談 (随時) 078-360-8553	第3火曜日 17:00~20:00
			電話相談 (随時) 078-360-1388	第1・2土曜日/第2木曜日 10:00~16:00
兵庫県立女性家庭センター (配偶者暴力相談支援センター)	電話相談	—	電話相談 (随時) 078-732-7700	毎日 9:00~21:00

## 相談室から

小野市女性のための相談が開設されて4年目になりました。大半の方が「こんなことで悩んでいて恥ずかしいのですが・・・」「もっと頑張ればいいのですが・・・」と前置きされます。しかし、打ち明けていただいた事柄のすべては女性が女性であるがゆえに受ける理不尽な状況そのものの中でおきている問題であることを痛感します。

相談室では、ご本人の気持ちと心の尊重を第一に、必要な情報を提供したり、感情や気持ちの整理、問題解決への優先順位の整理などを共にさせていただきます。どうか、おひとりでも悩まないでください。



本誌に対するみなさまの率直なご意見や感想をお聞かせください。ハガキ、ファックス、Eメールで受付しています。

- 企画・編集 はと・シップ編集委員会  
高坂純子、東一文代、中尾和栄、鳴美千恵子、藤井隆雄、藤岡昭臣、前田民樹、横山茂宏
- 発行 小野市
- 事務局 小野市男女共同参画センター (NPO法人 北播磨市民活動支援センター)  
〒675-1366 兵庫県小野市中島町72番地 小野市うるおい交流館エクラ  
TEL 0794-63-8156 FAX 0794-62-2400  
URL <http://www.ksks-arche.jp/danjo/> E-mail: danjo@ksks-arche.jp

## 小野市男女共同参画情報誌

COMMUNICATION PAPER FOR EVERYONE LIVE IN ONO

2006.8 Summer

No.9

# はと・シップ HEART SHIP

「はと・シップ」はハートフルシティとパートナー・シップを合わせて小野市の男女共同参画を表す愛称としています。

## 特集

### 座談会

# 子育てママのわいわい談義

### コラム

# 未来を生きる子ども達のために、男女共同参画社会を

## フォーラム報告

—センター開設1周年記念フォーラム開催—

# 「誰もが人生の主役 私らしく輝きたのねん!!」

6月24日(土)小野市うるおい交流館エクラホールにて、タレントでみかん山プロダクション代表の辻イト子さんをお招きし、1周年記念フォーラムを開催いたしました。場内は満席状態で、たくさんの方に聴いていただきました。結婚・子育て・介護・第二の人生と何事にも前向きで、まさに自分らしく輝いておられるお話でした。泣いて・笑って・元気の出る90分間で、そして同時に、辻さんのお人柄を感じるひと時でした。フォーラム終了後、参加者の皆さんからは「元気もらったわ！来て良かった。」や「いいお話だった。本当にありがとう。」という声をいただきました。センターが開設してもう1年、まだ1年。もっと、センターのことを知っていただき、また交流の場・拠点の場となるよう努めていきたいと思っております。



辻 イト子さん

## インフォメーション

Information

## 自己表現トレーニング講座

言いたいことがいえない、「ノー」がいえない。人間関係が苦手なあなたへ！働くあなたが、自分に自信を持つための講座です。

講師：正井 礼子 さん  
(ウィメンズネット・こうべ代表 三木市・川西市男女共同参画センター女性問題相談員)  
場所：小野市うるおい交流館エクラ2階 中会議室  
対象：女性  
定員：20名(応募多数の場合は抽選)  
参加費：無料 (要予約・10名まで)  
一時保育：無料 (要予約)  
申込方法：電話・FAX・メール・ハガキで、住所・氏名・電話番号・一時保育の有無を明記のうえ、お申込みください。  
締切り：8月20日(日)

講座	日程	時間	テーマ
1回目	8月26日(土)	13:30~15:30	自己表現の3つの方法
2回目	9月9日(土)	<受付>	さわやかな「自己表現」のために
3回目	9月16日(土)	13:00~	★ロールプレイ 日常の苦手な場面を選んでトレーニング

今後の予定	啓発セミナー	10月・11月	●パートナーと考える介護予防講座
		平成19年3月	●男の生き方講座
	就業支援セミナー	平成19年1月	-開講予定-

## 川柳

席題「男・女の本音」  
デートより 気合の入る 同窓会  
三木市 YOIO  
停年を 指折り数え 三下り半  
小野市 笹倉 正弘

エクラ内にも、投信箱を設置!

ハガキ・ファックス・メールでも受付しています。掲載された方には、小野市うるおい交流館エクラ・喫茶コーナーのモーニングチケットをプレゼント!ご応募は事務局まで。



2005年の合計特殊出生率（一人の女性が生涯に産む子ども数の推定値）が1.25となりました。政府のあの手この手の対策も歯止めにはなっていないようです。少子化社会に関する国際意識調査でも、自分の国が「子どもを産み育てやすい国と思う」と答えた人はスウェーデン97.7%、米国78.2%に対し日本47.6%と半数に満たなかった状況です。

子どもを持つお母さんはいろんな悩みや不安があるものです。そこで、子育て真っ最中のお母さん方に集まっていただき、**子育て、少子化、仕事**について自由におしゃべりしていただきました。

◆5歳・3歳の男の子、9ヶ月の女の子

- 核家族ですので子育ては大変です。
- 少子化と言うものの、私の周りでは子どもが4人いるご家庭も多いです。
- 経済的に、もうすぐ働きにでるつもりです。



◆小5の女の子、小1・3歳の男の子

- お義母さんに助けられています。結婚当初から同居なので、遠慮なくお願いできて恵まれています。
- 夫婦だけの生活だと三人目は考えていなかったかも知れませんが。
- 働きに出たいけど、これといった資格を持っていない。

◆6歳・2歳の女の子

- 主に私が子育てしていますが、困った時には、実家に助けられています。いずれは、夫の母と同居予定です。
- 仕事はしたいけど、子育て中の主婦は希望する時間帯などを考えるとなかなか見つからないです。

◆3歳・2歳の女の子

- 夫は帰宅が遅いので子育てに協力ができない状況です。休日には子どもべったりのお父さんです。
- 私の実家が30分ほどのところにあるので、用事があるときは子どもを預けています。
- 来春、仕事復帰します。それまでは子どもとの時間を大切にしたいです。

◆小4・小1・2歳の男の子

- 自営業なので夫が助けてくれます。三人目を産む時に「子育てに協力してね」と夫に訴えました(笑)
- 子どもが多いと、上の子が手伝ってくれたりして、かえってひとりっ子の方がしんどいかもしれませんね。

世間的には「子育て＝しんどい」というマイナスイメージが先行しているけれど、参加者は「子育ては楽しいし、子どもは今しか産めない！」と元気な子育てママ達でした。とはいえ、経済的理由で仕事はしたいと希望されています。

「小野市の子育て環境は他市より恵まれている」と口々に言われていますが、子どもを持って働くためには託児施設や就業時間などの問題があり、行政だけでなく企業のあり方もこれからの課題となりそうです。

今回は「子育てサロン<sup>(※1)</sup>」に参加されているお母さんにご協力をいただき、コーディネーターは、アルシェ子育て支援委員会委員長・宮脇京子さんをお願いしました。

アルシェ子育て支援委員会はエクラ内の託児ルーム「ちびっこバク」を拠点に活動しています。登録サポーターが子育て中の方の学習や活動を、託児を通してサポートし、安心して子どもを預けられる環境を提供しています。

(※1)子育てサロン＝子育て中の親子が気軽に集まり、子どもを遊ばせながら情報交換。子育ての悩みや楽しさ、日ごろ感じていることをおしゃべりしたりできる出会いと交流の場です。

おの育児ファミリーサポートセンター（小野市社会福祉協議会内 ☎63-3611）  
アルシェ子育て支援委員会（NPO法人 北播磨市民活動支援センター ☎63-8156）



厳しい子どもたちの声を聴いてください

- ・祖母が弟には「後継ぎ」って言うけれど、私には見向きもしなくなった。
- ・「男なら1分で泣き止め！男として情けない」と言う。男だから女だからと、何でも押し付けないでほしい。  
(後述平成17年小中学生意識調査から)

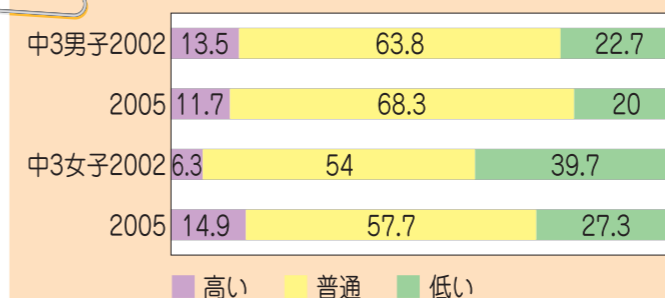
なぜ私たちは「男だから～女だから～」がしみこんでいるのでしょうか

私たちは、小さいころから「男は一家を養い、外で働き、女は家事育児介護など家族が暮らしやすいように、家庭にいろのがあたりまえ」といった男女の固定的な役割分担意識で育ってきました。男性は社会で働くことを前提とした「強さ」や「たくましさ」などが求められ、女性は家庭を守るための「やさしさ」や「奉仕すること」などが求められました。しかもこのしくみのおかげで、日本は経済大国になってきたのです。私たちがなんとなく男女共同参画を受け入れにくいのは、私たちがあたりまえとして育ったしくみを否定するものだからなのです。それは自分の生き方を否定するのと同じことですから、今さら「男や女や言ったらあかんのよ」なんて言われたら、混乱してあたりまえです。

でも男性も女性も不満はあるでしょう

ただこの経済成長のなかで、失ったものもあることを私たちは気づいています。男性は仕事だけが人生という生き方を強いられ、子どもの成長を楽しんだり家族と思い出をつむいだりすることもなく、退職したら何をしたらよいかわからない。強さを求められる男性は泣き言も言えず、中高年男性の自殺者数の多さが社会問題になっています。男性が主で、女性は従といった関係のもと、女性は自分の生きたい人生を生きにくい。こういった不満を男性も女性も自覚し始めているのも事実です。

自尊感情得点の比較 (図-1)



小中学生も男女で分けられるのは不満です

小野市は、平成14年から50音名簿を実施しています。50音名簿というのは、男女を分けずに「あ」から男女を混ぜて順に並べるもので「男女を分けない」「男子優先ではない」文化を創るものです。

平成14年と平成17年に小野市の小中学生を対象に意識調査を実施しました。そのなかで、①男子優先意識が中学生で少なくなった②中学生女子の自尊感情が高くなったということがわかったのです。14年の調査では中学生女子の39.7%が、自信を持っていませんでした。男子の22.7%と比べても、女子の自信のなさに驚きましたが、3年後の調査では女子27.3%男子20%と自信が持てない生徒の割合が男女ともに減っていました。それだけではなく自信を持っている割合が、女子で6.3%から14.9%へと増えているのです。(図-1)

なぜ自尊感情が高くなったのか、一概に50音名簿だけの効果とはいえませんが、大きな要素になったことは想像できます。男だから…と言われるのは男子にとってもつらいことです。それは性別で注意されるとすなおにきけない男子が多いことでもわかります。(図-2)

私たちおとなの責任は大きい

超少子高齢社会を生きていくためには、男女共同参画の意識と能力が必要になります。今まで自分がやってきたこと、つくってきたことを変えろと言われると、自分を否定されたように感じるものですが、「時代は変わった」のです。刷り込まれてきた役割分担意識に、おとながどれだけおりあいをつけられるかが重要になります。子ども達が生きやすい社会にするために、私たちおとな一人ひとりにできることは何でしょうか。

男だから女だからという理由で注意されたらどう思うか (図-2)

